

3年7月1日発行 第269号

長崎ほいくだより

発行：一般社団法人 長崎県保育協会 長崎市茂里町3番24号 長崎県総合福祉センター 3F TEL.095-846-8871

No. 269
2021.7

光大
明広 65円



国産種
だけでな
くいろいろ
な国の
昆虫に出
会うと、
種類によつて発

「卵はどうやってつくられるの？」
子ども達の質問がどんどんと深くなつていきました。人間も祖父母がいて、お父さんやお母さん
がいて、あなた達がいるということを例えに、力不足虫も交尾をして卵を産み子孫を残すことを虫

育てるところ

も借りりず、あの小さな体で必死に土の上に這いつがつてくる生命力にはいつも圧倒されます。子ども達は「きれい!」と言つて、まつ白な力プト虫がまつ黒になるのをじつと見つめますが、その瞳が

く、生きるものすべてにて
「死」は必ずやってくる
ことを娘に話しました。
命には終わりがあること
を伝えなければならない
と思ったのです。

幼児期から花や昆
虫やクワガタ虫の、
はセミの生きた証を
あげたいと標本を
ました。私に尋ねる
好きな娘たちは、夏
の自由研究にのめり
でいきます。娘は力

した。自らの意志を持つて行動する娘に、母として、また生き物係としての喜びを噛みしめていきます。

いでしょうか。これからもたくさんの方々との出会いに感謝しながら、毎日の子育てを楽しんで、けたらと思います。

夏の夕が、「幼い」と、嬉ました。虫が1年になることになりました。娘のすることばで、下の通りで、余裕で、幼虫は必ずもしもしたいと思いました。私が物飼育となりました。虫1匹、だき、始

終わり、5歳の娘虫もったよ」
「そうに帰つて
しかし、その幼虫から蛹になる様子、と
くに蛹が成虫になる姿が、まるで
理、卵を産み育てるにはどうしたらよいかなど、
試行錯誤の日々が始まりました。幼虫が食べやす
いように、土や木をミキサーにかけて食べさせた
こともありました。まるで赤ちゃんに離乳食をあげる
みたい、と娘が笑いました。虫だつてお散歩が
したいはず。窮屈な小屋から出してあげると、羽を広げて気持ちよ
さそうに部屋中を飛び回ります。朝起きるとクワガタが顔のそばにいたことがあります。成長の様子を見るために虫小屋の前にカメラを置き、幼虫から蛹になる様子、とくに蛹が成虫になる姿が、まるで

育の不規則性が進んでいたり、育つ環境が違うことで、また学びました。オオクワガタの幼虫は、1匹ずつ白い菌糸瓶に入れて育てるところから大きくなり成長します。初めて見る蛹が珍しくて触ってダメになりましたが、黄金オニクワガタや虹色クワガタなどの幼虫が入った菌糸瓶150本が部屋中を埋め尽くし、気がつけば14種200匹になりました。

A photograph showing a man from behind, wearing a black t-shirt, sitting at a wooden workbench in a workshop. He appears to be focused on a task on the bench. The room is filled with shelves stacked high with boxes, containers, and other workshop supplies, creating a cluttered but functional environment.

娘が小学6年生になるとき、生き物を取り巻く環境問題についてより深く学ぶようになります。同じ気持ちを持つ仲間と出会い、人や生き物が暮らすやさしい世の中について真剣に考え、環境保護をテーマにしたコンクールでは文部科学大臣賞を受賞しました。考えるだけでなく、海の清掃活動にも立ち上ります。ボランティア仲間にも恵まれ、海掃除も1年以上続けていますが、子ども達は成長するにつれ、命の大切さ、家族の大切さも理解できています。

コロナ禍の今、子育ても窮屈かもしません。しかし、仕事と家事と一緒に励む親御さんや私も、産後うつに悩む御さんにも「道に咲く草を眺めたり、野菜をブンタードで育てたり、お子作りをしたり、身近なことを一緒に共有するとはすばらしい」と伝えたいのです。

に報告「来てください」とお電話しだとつたけれどね、「それなつたら、怖くないよね」「うん、興奮冷めやらず、それから毎日お化けの話題しかし、いざ本番、となるとやっぱり『こわい』。でも一緒に入っててくれるお友だちとの絆が深まつたり、少し強くなつたり。怖がるはずと思つていた子の方が案外、平気で喜び、嬉しい発見があるお化け屋敷は、七夕まつりに欠かせないアトラクションです。「全然怖くない」と言いつつ、小学生も毎年楽しみに来てくれます▼驚かせすぎないように、と配慮した保育士が目を離した隙に、部屋が更に暗くなつていったり、人数や入るタイミングで指示があるつづき



An illustration featuring a vibrant rainbow arching across a blue sky filled with white, fluffy clouds. A large, stylized red question mark is positioned in the lower right area of the frame.

長崎ほいくだより

発行：社団法人 長崎県保育協会 長崎市茂里町3番24号 長崎県総合福祉センター 3F TEL.095-846-8871

購読料 一部 55円

続きを読むは、お買い求めいただきご購読下さい。

お問い合わせは、保育所(園)または長崎県保育協会までお願い致します。

2ページ目以降の内容をご紹介

■ つれづれ

園長先生等のリレー式コラムです。保育に対する思いや考えなどを文章にしています。

■ 保育のひろば

- 地域との交流

各保育園の近隣の交流状況など画像を添えて紹介します。

- ランチタイム

給食やおやつ、食育等の取り組みを情報提供致します。

- 保育園めぐり

県下の保育園を地区別に順番で紹介しています。

■ すこやかなそだち

保育の専門家が、プロの視点で子育てに関する様々なテーマに基づいて書き下ろす連載コーナーです。

■ 読者のひろば

子育ての思いやエピソードなど地区別の保護者に書いていただくコーナーです。

■ でいい

保育士に保育に対する質問を投げかけそれに答えるコーナーです。

■ ZOO夢イン 家族のお出かけスポット情報

編集部一押しの地元のお出かけ情報です。家族向きのお出かけに参考になります。

■ つぶやき

■ わんぱく写真館

子ども達の日頃の保育園における活発な活動の写真を掲載しています。

■ え？！絵本

子ども向けのおすすめ絵本です。わかりやすく解説しています。

